

【司会】

定刻となりましたので、ただいまから、若葉区美浜区合同区民対話会を開会いたします。私は本日の司会を務めさせていただきます、美浜区地域振興課地域づくり支援室の立石と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、美浜区・若葉区の職員につきましては、10月いっぱいまで、夏季の軽装にてノーネクタイで取り組んでおりますことを申し添えさせていただきます。

本日開催の若葉区美浜区合同の区民対話会には、若葉区の農業関係者7名、美浜区の区民の皆様12名の計19名に参加していただいております。

また、オブザーバーとして農政センターから3名の職員に参加いただいております。

なお、本日の会議の傍聴者の方が3名いらっしゃっております。

対話会に入る前に、本日の区民対話会の趣旨について、説明させていただきます。

本日の区民対話会は、「若葉区と美浜区の『農』を通じた交流」をテーマとして、両区の区民の皆様と両区長とが直接意見交換を行い、今後の両区のまちづくりの参考とさせていただくことを目的としておりますので、是非とも活発なご意見をいただきたく、参加の皆さまには何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

お手元には本日の会議で使用いたします資料を配布させていただきます。それでは、配布資料の確認をさせていただきます。

次第、参加者名簿、座席表、美浜区参加者事前アンケートの集計結果、農政センター資料、若葉区基本計画（概要）の全部で6点の資料をお手元にお配りしております。

不足はありませんでしょうか。

不足がありましたら事務局までお申し出ください。

また、美浜区からの参加者の方につきましては、会場に至るまでの車中において、本日の会議の前に立ち寄りました各農業関連施設などのご案内のパンフレットをお配りしております。若葉区からご参加の皆様にも参考までに机の上に置かせていただいておりますのでご確認ください。

本日の会議の流れでございますが、お配りした次第をご確認ください。

はじめに両区長を代表し、若葉区長の挨拶のあと、参加者の皆様に自己紹介をしていただきます。そのあとには「若葉区と美浜区の『農』を通じた交流」をテーマに両区からの参

加者と両区長において意見交換していただきます。

途中、本日参加の農業関係者から、美浜区民に向けた農の魅力のPRの時間等も設けさせていただきますながら意見交換を進めて、最後に、美浜区長からの挨拶とさせていただきます。閉会は15時を予定しております。また本日の議事内容につきましては、市政の透明性を高める観点から、多くの市民にも知っていただくため、個人名等の個人情報を除いた形式で議事録を作成し、区のHPで公開することを予定しておりますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。議事録の作成に当たっては本日の進行役である区長に一任していただきたくお願い申し上げます。

それでは、まず初めに、若葉区長の岩成からご挨拶申し上げます。

**【若葉区長】**

(若葉区長挨拶)

**【司会】**

つづきまして、参加者の皆様に、簡単にお名前等の自己紹介をお願いしたいと思います。まず、美浜区参加者をお願いいたしますが、美浜区長からお願いいたします。

(美浜区長自己紹介)

(美浜区参加者自己紹介)

**【司会】**

ありがとうございました。次に若葉区参加者をお願いいたします。

(若葉区農業関係者自己紹介)

(オブザーバー農政センター職員自己紹介)

**【司会】**

ありがとうございました。それでは意見交換に入りたいと思いますが、進行については若葉区長の岩成が務めさせていただきます。

発言の際は、挙手をしていただき、ご発言は簡潔をお願いしたいと思います。

なお、発言は着席のままをお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

**【若葉区長】**

それでは、意見交換会に入りたいと思います。

今日はもうざっくりばらんな意見交換会にしたいと思いますので、最初に美浜区の皆様からご意見、尋ねたいこと、また要望等をご発言させていただきます、それに対して若葉区の農業関係者の方がお答えするようにしたいと思います。

それでは、美浜区の方からどなたか最初をお願いいたします。

**【美浜区参加者 A】**

昨年の11月から美浜区役所で「朝市」が始まりまして、始まって最初の11月、12月と2回ほど朝市を見に行きました。開催される毎月第2日曜日というのがちょうど私も町内会の会議が午前、午後、夜と重なっているものですから、なかなか見に行くことができなかったのですが、本日「農」をテーマとした対話会があるというものですから、今月の朝市に行ってみりました。

昨年、一番初めに感じたことは、日頃あまり目にしないような種類の農産物を販売していた場合に、消費者のほうとしては、どうやって食べたらいいのかということがわからないときがあるんですね。ですから、買い物をするときに、これこれこういうふうにして食べて、おいしいですよとかいう説明をするのは、消費者と生産者がお互いに話ができていいんですが、もしできたら、そのレシピをおいていただければ、この野菜はこうやって食べたらおいしんだなとかいうことがすぐわかるのではないかと思います。

それから一番に感じたことは、お米の販売でした。結局、大きい袋で売っていたものから、やはり消費者にすると、実際に食べてみておいしいのかしらという心配があると思うんです。ですから、あの大きい袋じゃなくて、小さい袋へ小分けにして売るようにしてくださいという提案をしたと思うんです、私は。今日、たまたま下田農業ふれあい館の農産物直売所を見ましたら、1キロの袋がありました。ああいうふうに、小袋で朝市するときにも持ってきていただければ、消費者のほうで試しに買ってみたいとおいしかったと、今度はぜひ大きい袋で買ってみたいという気が起きるのではないかと思います。

やはり、消費者のほうも生産者の顔が見えるということは、一番いいことなものですから、ぜひこれからも朝市はお互いが活用して、そういう場を大いに盛り立てていくよう、お願いしたいと思います。よろしくお願いします。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課長】**

ありがとうございます。つきましては、私のほうから。

1点目のレシピにつきましては、間違いなくそれをつけさせていただきます。売っているのが実際に農家さんですので、都会の方が「これ、何？ どう食べるの？」と会話ができるというのが非常に楽しみだということが1点はあると思います。それでなおかつ調理方法のレシピがついていれば、なお一層いいということで対応させていただきたいと思います。

また、お米につきましては、美浜区の方は非常にお一人の方が購入される金額が高いんです。特にご婦人は会長さんもお存じかもしれませんが、自分では持ち切れないほど買われるんです。それで「どうやって持っていかれるのですか」と聞いたら、ちょっと家に電話してお父さんに取りに来てもらうとか、そういう方もいらっしゃるんですけど、特にお米は5キロとかという数量ですから、それが2キロ、3キロという小袋であれば、お持ち帰りいただきやすいということで、それも美浜区役所で朝市を実施している農家さんには今後対応させていただきたいと思います。

とにかく、地産地消といいますか、とりたての新鮮野菜を朝市で買って、お家に帰られて、調理して味わっていただく。それがすごくつながりとしてはいいものですから、今後とも皆さんの信頼といいますか、期待を裏切らないような販売形態をとっていきたいと思いますので、今後ともひとつよろしくお願いします。

【美浜区参加者 A】

よろしくお願いします。

【美浜区参加者 B】

いいですか。

【若葉区長】

どうぞ。

【美浜区参加者 B】

今の件に関してですけれども、大変結構なことだと思います。ちなみに、美浜区といっても結構広いんですよ。美浜区役所までとなると、区内でもお住まいの場所によっては、ちょっと行かれないんですよ。ですから、販売拠点をもっと増やしていただければ、我々は助かるんじゃないかと。というのは、うちの近所にスーパーがあったんですけども、やはり高齢化を迎えまして、お年寄りしかいない。お年寄りの購入というのは微々たるものなんですよ。若い人がいれば子供のために野菜でも何でもいっぱい買いますけれども、年寄りとか独居老人とかになると、いくらも買わないんです。そんなことで、スーパーがつぶれちゃってなくなって、買い物に皆さん不自由しているんですよ。ですから、あちこちに販売拠点を設けるのは難しいと思うのですが、公民館とか、あるいは自治会館なんかある場所ですよ、そういうところなんかも皆さんと話し合っ、1週間に1回でも結構なんですよ、出していただければ我々はほんとうに助かるんじゃないかと思うんですよ。無理な注文じゃないかと思いますが、ご検討いただきたいと思います。

**【若葉区長】**

農政センターさん、これについてはいかがですか。

**【農政センター農業生産振興課長】**

実は美浜区役所での朝市の開催を立ち上げるときに、今回の会議会場になっている付近の若葉区の農家の方の荷を持っていくわけです。それで、最初我々がお願いしたとき、市の園芸協会という農家の団体があるんですけども、そこが主体にやっているのですが、とにかく美浜区は若葉区から遠い、こちらから荷を持っていくのが遠いということで、美浜区役所でもどうなんだろうという話があったんです。あったのは事実なんです。それで、我々が試してもいいから、市内産農産物のPRのためにやってくれないかということでお願いした経緯はあります。今おっしゃった意見も非常に大事な意見と私は思います。我々としてはJAのしょいか～ごさんも含めて、フットワークよくやっているつもりではございますけれども、その美浜区の区連協会長さんにご説明させていただいたときも、近隣の商店街の関係とか、近隣の諸々の関係をクリアして、月に1遍の話なんですけれども、月に1遍だからいいじゃないかという話もあるかと思っておりますけれども、なかなか難しい部分もございます。京葉線の海浜幕張駅をメッセ側におりて左側に、少しあいている土地があるんですけども、あそこで朝市をやろうかという話になったときに、あの辺はもう商店街がいっぱいありますから、あの辺の商店街を軒並みにお願いして話を通すというのは、なかなか難しいんじゃないかということで立ち消えたことはございます。

今、お伺いした地区とそれは一緒にはなりませんけれども、そういった諸々のことがありますので、私ども一概にはなくて、例えば地域振興課とか、また区役所さんとか、そういう部署と相談して、この辺は買い物をするのにすごい不便ですよということがあれば、検討はしたいと思っております。

**【美浜区参加者 B】**

わかりました。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課長】**

いろいろなことがございまして、言い切れないというところで、ご了解いただきたいと。

**【美浜区参加者 B】**

よろしくお願いたします。

**【美浜区参加者 C】**

本日はこの若葉区でいい空気を吸わせていただきました。若葉区は美浜区の土地の約4

倍あるとお聞きしましたが、人口は美浜区に比べて5,000人ぐらいしか多くないんです。美浜区は今、14万4,000人ですから、若葉区さんが14万9,000。今後の行政を含め、今日、回答意見をもらうつもりはないんですが、少子化高齢化等、TPPの問題いろいろ問題になっておりますが、少子化でも美浜区はまだ1世帯当たり2.36人、若葉区さんは2.24人という、世帯数で割った場合に、そういう世帯構成になっているようです。ですから今後、こういう立派な土地を持っていらっしゃるんで、これは日本全体のことなんですけれども、農業の魅力というのをもう少し何かつくり出せないかなと。農業の魅力をつくって戻ってきてもらいたい、あるいは続けてもらいたいと。こういう状態が続きますと、日本の農業はほとんどやる人がなくなる。これはもう想像がつかますね。その対策として会社方式にしようとか、いろんな問題が出ておりますけれども、そこまで行くにはまだ相当時間もかかるでしょうから、この立派な土地を利用した農業の魅力というのを今あちこちで店を出したり、出店したりという、それも一つの魅力の積み上げなんですけれども、何とか農業の魅力を皆さんでひとつ考えていただいて、今後の農政の発展に寄与していただければと思います。

私も子どものころは兼業農家でしたんで農業も少しは知っておりますけれども、その魅力も今とは大分違ってはおるわけですが、この農業の魅力というのは、底深いものがありますので、もう一度皆さんで身の回りの身近な問題から解決して行って、農業の発展を私は願いたいと思っております。

意見になりませんかもしもかもしれませんが、以上でございます。

#### 【若葉区長】

ただいまお話のあったのは、農業の魅力の件ですけれども、皆様方のお手元に、こういった「若葉区基本計画」をお配りしてあります。これは美浜区さんでも同じように作成しておりますが、「若葉区基本計画」につきましては、一番左側に太字で書いてあります区の将来像として「豊かな自然環境と地域資源を活かし魅力と活力と誇りのあるまち 若葉区」を目指すということで、右側に施策展開の方向性1、2、3、4とあります一番最後の「4 愛着と誇りを持てるまちづくり」の中で、一番下の(3)農業・農村を地域資源として活用するというので、都市と農村との交流の促進といったものがあるので、今回その一環としてやっておるわけです。それと千産千消(地産地消)の推進、それから農業・農村の魅力向上ということで、まさに今、おっしゃったようなことを今後、区役所としても力を入れてやっていきたいと思っております。

もちろん具体的には農政センターさんとか、農業関係者のお力を借りて、また美浜区の皆様のご理解を得ながら進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

【美浜区参加者 C】

ありがとうございました。

【若葉区長】

ほかに何かありますか。

【美浜区参加者 D】

よろしいですか。

【若葉区長】

どうぞ。

【美浜区参加者 D】

私も初めてこの辺に来て感じたんですけども、1つ、私ども美浜区役所のところで野菜を売る市、朝市の際に私も2回ぐらい行ったんですか、2回目は女房を連れていったんですけども、感じたのは、さっきおっしゃったように、もうちょっと種類が多ければいいかなという気がします。行ってみて、近所で聞くとどうも種類が少ないと。愛情を持って何とか協力しようという考えの人は、種類が少なくてもそこへ行ってとりあえず何か買って帰りましょうとなるんだけど、そうじゃない人は意外に種類がないと、また行ってもあまり種類がないということになると、やっぱり足が遠のくという感じがあるんです。農家と美浜区などの地域が交流して、千葉市全体を盛り上げ、農家を助けてどんどんよくしていこうじゃないかという人ばかりでもないんで、やはりお願いとしては、何回も行けるように、もう少し種類を八百屋さんじゃないけれども、いっぱいいろいろなものを千葉県内のものであればいいと思うんで、もう少し種類を増やしていただけるといいような気がします。そうすればもっと広がっていくんじゃないかな。ロコミでどンドン、ああいうのはあそこへ行けばいいわよとなると思うんですよ。種類が少ないと、それがあんまりロコミで広がらないという面があると思うんで、それ1つ感じたことです。

それからもう一つ、今日来て感じたのは、ここへ来て、お昼を食べたり、あるいは売っているところを見て、来れば体験というんですか、体で「ああ、これはいいや、また来ようよ」という感じが起きるんですね。我々そうなんですけれども、いくらこういうパンフレットとかを配って区役所に置いてあっても、なかなか見ないんですよ。どうしても読んで、これだけいっぱい書いてあることはあるんですけども、あまりこういうのを読ま

ない。やはり口で対話して、耳から入って目で感じると、あるいは体で感じると、「おおっ」となる。やる気が起きるんですね。そういう点では、こういう区民が交流するような会をたまに、10年に1回とかそういうんじゃなくて、もっと頻繁にやって体で交流を感じると、何とか助けてやろう、一緒にやっ払いこうじゃない、千葉市とか、農業を助けていこうじゃないかという気が起きると思うんですよ。そういう点では、こういう交流をもっと増やしてほしいということ。

それから私も早速町内の皆さん、バスでこっちに来年連れてこうようと思っているんですけども、予算があるのでやろうと思うんですけども、そういう点では、受け入れ体制を、まとまった団体で来るような場合、窓口があるとよいなど。一回連れてきて、見れば体で感じますよ、それは人間だから。パンフレットなどをいくら読むよりもはるかに来て見て交流すると感じますので、体験で。だからもっと交流を増やして行って、体で感じて、行ってきた人がまた口コミで「よかったわよ」と買ってあげようじゃないかという気が起きると思うので、そういう交流をもっと頻繁にやる機会を増やしてほしいと。市のほうでまたそういう場を提供して、その日はまた行けるような、そういう交流の場をつくってほしいなという気がします。

そんなところですよ。以上です。

**【若葉区長】**

体で体験することが一番重要ですけども、今日も時間があれば、芋掘りの体験とかを皆さんにしてもらおうと思ったんですけども、時間がなくて、またの機会にその辺のことを企画したいと思います。

**【美浜区参加者 D】**

いいですね、そういうの、一番いいですよ。

**【若葉区長】**

どうぞ。

**【美浜区参加者 E】**

私はベイトウンに住んでいます。新しい町で16年です。世帯数は9,000世帯ぐらいあるんですけども、八百屋さんが1戸しかないんですね。スーパーマーケットはあるんですけども。それで私なんか元気で車を持っているから、ほかの大きなところに行って買いたくはないんですけども、それで新鮮なものが欲しいなということでしたんですが、去年から商店街で朝市を公民館だから一番真ん中で、企業庁の土地があって、車で持ち込みで入れるとこ



ろがあるんですよ。それで多いときには60店舗とか入っています。それで今年は4、6、9、10、二月に1回やろうということでしたが、今年はいろいろ行事があつてなかなかできなかったようですが、朝市は地方から魚が来たり、野菜も新しいのが来て、すごくにぎやかで、自治会が持っているテーブルを出したりもして、7時半から11時ごろまでやるんだけど、それはすばらしいことだと思っています。

それで1つ提案というか、先ほど出ましたけれども、芋掘りも私たち、以前に幸町に住んでいたことがあつて、その時に町内で2回ぐらい八日市場まで行ったことがあるんです。家族連れでバス2台ぐらい借りて。ここの幕張に移ってからないんだけど、今日のここを見ると、ブドウとかイチゴとか柿とか栗とかあるんだけど、町内会でバスを借り切って半日とかそういうのはないのか、あるいは紹介が欲しいなということがあるんです。もしあつたら、家族で車でもいいから、寄って皆さんで楽しめることがあれば教えてください。PRしたいなと思うんだよね。家族あるいは車で行ける途中でも。

**【美浜区長】**

ありがとうございました。先ほども自治会でバスを借り切って、こういうところに来るにはどうしたらいいか、今も観光農園、そういうことのご質問なんですけど、そういうことをやられておられる農家さんも本日いらっしゃると思うんですけど、いかがですか。

**【若葉区農業関係者（観光農園経営者）】**

若葉区小倉町でイチゴ狩りとブルーベリー狩りなどができる観光農園を運営しています。モノレールの千城台北から歩いて20分ぐらいのところ、植草学園短期大学の近くです。しょいか〜ごさんからも車で5分ぐらいで来られるところで、イチゴ狩りは1月1日から5月のゴールデンウィークまでやっています。

**【美浜区長】**

バスで入っていただけますか。

**【若葉区農業関係者（観光農園経営者）】**

はい、バスも入れます。結構成田に近いせいか、外国の方も多くいらっしゃいます。去年は、お時間があるからと言われて、成田から東京へ行く間に中国の方とかタイとかいろいろな国の方に寄っていただきました。また、千葉県のブルーベリー狩りが3つ紹介されていたということで、韓国から中学生が修学旅行で来てくれました。

**【美浜区長】**

そうですか。外国の方も来られているそうですので、観光農園さんに連絡すれば大丈夫

ですから。

**【美浜区参加者 E】**

このパンフレットのところでよいですね。

**【若葉区農業関係者（観光農園経営者）】**

はい、よろしく申し上げます。

**【美浜区長】**

ということです。

農政センターさん、どうぞ。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課長】**

この市の園芸協会のパンフレットに載っていますものは、すべて電話番号等も裏に載ってまして、この品目がこの季節に観光できるということでございますので、形態によっては家族でマイカーで行くか、自治会でバスで行くかということで、農家の園主さんに電話連絡をとっていただければ、それは対応できるようになっておりますので、PRをぜひともよろしくお願ひしたいと思ひます。

**【美浜区参加者 E】**

はい。私、社会福祉協議会の地区部会の仲間に入っているんだけど、シニアでバス旅行というのがいいなと思ひて。日帰りです。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課長】**

日帰り旅行は非常に良いと思ひます。

**【美浜区参加者 E】**

ボランティア委員会というのを企画するんだけど、この前は横浜見学とか何かいろいろやりましたけど、近いところで楽しいかなと思ひて。

**【美浜区長】**

ありがとうございます。ぜひ、こういうパンフレットを見るだけでなく、体験していただいて、ほんとうに今日はお天気もよくて、農地をこういうふうに見て、ゆっくりと過ごされるのも非常に健康にもいいのかなと思ひます。ぜひ企画していただいて、よろしくお願ひします。

**【若葉区長】**

それでは、どうぞ。

**【美浜区参加者 F】**

はい。区役所や区民フェスティバルの朝市に若葉区の農家の方が見えていると私、初めて知りましたんで、申しわけございません。それから先ほど中田の市民農園を見学したのですがこの場所がちょっとわかりにくいんですね。以前6月に私もこの辺に来ましたが、迷子になりまして、くるくる回って探しました。やっぱりまさに体験です。私も1回来ましたものですから、今度また来年も来てみたいと思っておりますので、どこを目印にして、一番わかりやすいところはどこか、これが知りたいと思いますが、どうでしょう。

以上です。

【美浜区参加者 B】

いいですか。

【美浜区長】

はい、どうぞ。

【美浜区参加者 B】

こんなに立派なパンフレット、私、今日初めて見たんですけれども、これをどこに置いて、どうなっているのか、私、全然知らないんですよ。この観光というのは、宣伝なんですよね。自分のところにつくって、地元においておいても全然宣伝にならないんですよ。ですから、もう少し、我々単位自治会でいろいろやっていますから、そういうところにこういうものを配って、何も栃木までイチゴ狩りに行かなくたって千葉でイチゴ狩りできるんですよ。私、知らなかったんですよ、千葉でもイチゴができるよというのは。農園もあるよと知らないから、やっぱりみんな無理して栃木とかそういう遠いところまで行くんですよ。ですからこんなブルーベリーとか、イチゴとか、こういう立派な農園あるんでしたら、もう少し宣伝ですね。観光というのは私は宣伝じゃないかと思う。

私、出身は山形なんですけれども、うちの地元はサクランボの産地なんですけれども、宣伝が下手だから隣町の方が有名で。隣町は寒河江のサクランボって、よく知っていますよね。あそこは宣伝上手ですから、どんどん。それでサクランボを山形にもぎに来るのは、うちの隣の町のほうに来るんですよ。ですから宣伝というのは、私は一番大切じゃないかと。知らないということはだれにも知られないんですから。

こういうものを見れば、私も考えたら、何も遠くまで高いバス代かけてイチゴ狩りに行かなくたって、年寄り、近いところのほうがいいですからね。いいなということを考えたので、宣伝方をひとつよろしくお願ひしたいと。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課長】

ありがとうございます。十分反省をします。よろしくお願いします。

**【若葉区農業関係者（富田町管理運営組合）】**

わたしはこの会場を含めた富田都市農業交流センターの管理運営をやっているのですが、やはりこれは行政で直してくれないと宣伝できないんですよ。何でっていうと、市の農業の広報誌みどりちばっていうのがあるでしょう、あそこに載せるのには、小さい組合はだめなんです。載せてくれないんです。この富田地区でコスモス祭やっても何をやっても、小さい個人的な組合だと、載せてくれないんです。

**【美浜区参加者 G】**

私も知らなかったですね、この富田町の会場周辺に咲いていたコスモス。

**【若葉区農業関係者（富田町管理運営組合）】**

申しわけないです。それでこういうものは、ある程度のところには置いてあります。

**【美浜区参加者 G】**

ある程度ってどういうところですか？

**【若葉区農業関係者（富田町管理運営組合）】**

若葉区なら若葉区役所とか、あちこちにはある程度置いてあります。

**【美浜区参加者 G】**

若葉区役所などに置くだけではしょうがないのでは。

**【若葉区農業関係者（富田町管理運営組合）】**

それなので、行政の広報的なものに出すのが一番いいのですが、それを出してくださいと言ってもなかなか載せることができないんです。

**【美浜区参加者 B】**

若葉区内の施設に置くのではなく、直接美浜区へ送ってください、我々のところへ。皆さん、会長とかそういう人が来ていますので、送ってくればいいんですよ。若葉区役所へ持っていっても、だれももっていかないのでは。直接、郵送、80円出せば、これは来るんですから。情報を知っていれば、じゃあ、行くべと検討するんですよ。わざわざ若葉区役所まで行って、これもらってきて、皆さんどうしましうかっていかないと思えますよね。もういろんなところから旅行案内なども来ますので。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課長】**

広報の仕方については、十分反省したいと思います。

**【美浜区参加者 B】**

宣伝費というのはお持ちだと思いますんで。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課長】

皆さんにわかりやすいように変えさせていただきますので。

【美浜区長】

ご意見ありがとうございます。地元の自治会などで配っていただけるそうですので、どんどんPRをするように、区役所のほうも間に立てるように頑張っていきますが、直接お手元に届けるということがよいようですので、よろしくをお願いします。

【若葉区長】

ほかにはありますか。

【美浜区参加者 G】

実はこの交流の場となる対話会への参加したきっかけは、美浜区の広報か何かで見たんですけれども、というのは、私、現役をリタイアして10年になるんですけれども、まだ現役のとき、54歳から家庭菜園をやっております。当時私の同僚が八街に住んでいました、その同僚の知り合いに空いている農地があるんで、それをただで貸しますからやってみないかというのがきっかけでやったんです。そしたら家庭菜園をやり出すと、自分で耕して種をまくと芽が出てくるんですよ、必ず。その芽が出てきた喜びが完璧にはまっちゃいまして、ほかにもっと激しい趣味は持っているんですが、私は稲毛海岸から通っているんですけれども、マイカーで八街のその畑まで片道ウイークデーで約1時間かかるんですよ。30キロありますから、往復で、現役のときは週末の土日に行っていましたから、月に8日八街へ行ったらガソリン代がすごいかかるんですよ。だけれども、家でぼけっとしているよりはいいだろうということでやり出して、それが完璧にはまったんですが、それがきっかけで今家庭菜園をやっているんですけれども。

それでたまたまこの若葉区は、私が畑へ行く間に若葉区を歩いていきますので、周りを見るともう植林とか、田んぼはあんまりなくて畑が多くて、この辺で借りられればいいなといつも思いながら通っていたんですよ。そしたらたまたま今回の「農」をテーマとした交流の場としての対話会があったもので、じゃあ、ちょっと参加してみようかということで市民農園も会議の前に見たんですが、私にとってはちょっと面積が狭過ぎる。若葉区基本計画の解説で「自然環境と地域資源を活かして」と書いていますけれども、これ、魅力と活力と誇りのある若葉区にしたいという大きなスローガンがあるにもかかわらず、高齢化というのは何も若葉区だけではないんですよ。全国至るところそうですよね、特に都

心は。

千葉市にしても、私は稲毛海岸から8分くらいのところの美浜区高洲のマンションに住んでいますけれども、430世帯のマンションで、自治会の役員も何回もやりまして、管理組合と自治会の間に立つ、もう一つの機関を設けているんですけども、私のマンションは。そこでは月1回の産直市というのを有志が集まってやるんですけども、それを第3日曜日にやるんですけども、最初はものすごく好評だったんですが、だんだん客の層が決まってきました、高齢者ばかりなんです、買いに来るのは。若い人は子供がいますから結構食べますから、近くの大型スーパーに行けば新鮮で安いのがいっぱいあります。だから客がだんだん固定化されて、だんだん客が減ってきたわけです。

どこも高齢化になっているんだから、この若葉区の魅力をどうしたらいいかということをもっと真剣に考えていかないと。私の住んでいる美浜区でもマンションの住民の高齢化も進んで、だんだん若い人がいなくなりました。今は第2世代が入るようなサイクルになってきています。だから、だったらこの若葉区は、この自然環境と地域支援を生かす生産地であって、消費するところではないような気がするんですよ、この若葉区というのは。とにかく生産して安く、どういうふうに提供していくかということで、もっと真剣に考えないと、若葉区基本計画で2012年度から33年度、この間10年間でやりますとこんな大きなスローガンを掲げても、もっと具体的な策を練っていかないと、このままじり貧に行きますよ。それとますます高齢が進んでいきまして、10年先になったらもう80歳、90歳が多くなって、今回、参加されていらっしゃるJA直売所しょいか〜ごの方ぐらいの若い人が農家の中に1人でもいらっしゃって、その畑をやっていこうという世代層がいっぱいいればいいですよ。そういう人がいないですよ、どこへ行っても。だからこの自然を生かす方法をもっと真剣に。

それと一番端的な、先ほどもどなたかがおっしゃられたか知りませんが、美浜区の自治会との交流をもっと接点を持ってやったほうがいいですよ。そうすると自治会員というのは、それをテーマにして、バスを引き立てて見学に行くわよという企画もいくらかも持っていますから。高齢者も多いですから、バスを調達すればいくらかでも参加しますから、そういうことも美浜区の自治会ともっと接点を持ったほうがいいと私は思います。

それともう一点は、今回見た市民農園は面積のわりに賃料が高い。ということは、40平米で2万円でしたか、たしか。

【若葉区農業関係者（中田市民農園管理運営組合）】

20平米のところは年2万円と10平米のところは年1万円です。

【美浜区参加者 G】

20平米で年2万円ですよ。40平米といたら大体10坪弱ぐらいでしょうか。

【若葉区農業関係者（富田町管理運営組合）】

12坪。

【美浜区参加者 G】

そしたら、今日、現地見ましたけれども、私、大体1人で30坪ぐらいやっていますから、あれぐらいの坪数では全然少ないと思うんで、どうしようかと迷っているんですけども、ただ地理的には非常にいいと。しかし車がないと絶対に来られない。だからああいふことをやるのもいいんですけども、やはり車を持っていないと、あそこまでは通えないです、美浜区の人も。私の自治会も車を持っていない人がやはりやりたい人が多いですね。その点が一番問題点じゃないかと思うんですよ。だからこういう高齢化、私も一緒に高齢ですけども、やはり家でごろごろしているよりは、何かをやりたいという人がいっぱいいるんですよ、必ず。

やはり美浜区と若葉区というのは、ちょっと距離がありますから。私の家からだとも15キロぐらいですけども、そういうところも考えていただかないと。それと値段がもう少し、段階別に値段がつけられないかとか。例えば60歳から65歳まで幾らとか、65から70は幾らとか。もうちょっと柔軟な発想を持ってもらえれば、もっと参加者が多くなるんじゃないかという気がしますね。

以上です。

【若葉区長】

ありがとうございました。

20平米とかそういった面積じゃないと満足しないでしょうけれども、もっと広い家庭菜園というものもありますよね。

農政センターさん、どうですか。

【オブザーバー農政センター農業経営支援課都市農村交流室】

市民農園の区画は一応幾つでも借りられるんです。

【美浜区参加者 G】

いや、そうはいつでも値段の問題ですよ、値段の。

【オブザーバー農政センター農業経営支援課都市農村交流室】

値段に関しては、指定管理者制度というのをとっておりまして、全部埋まったときに、これだけの収入が入るということを仮定して、いわゆる委託料が幾らと決まっているんですよ。今、40%弱ぐらいの充足率。そうしますと、賃料を下げると持ち出しているわけなんです。そういう役所との決めごとがありますので、この中田の市民農園に関しましては、今ここで賃料をというお答えはできないかと思うんですが、余っている農地をそうやって貸すことができるだろうかとか、農地っていうのは、売り買いは農家しかできないのはご存じだと思うんですけども、農地を借りたいということに関しての窓口は一応農業委員会にはなっているんですが、私どもも空いている農地を新規就農者に使ってもらえないだろうかとか、自分のところでもって農地はあるんだけど、勤め人だったよという方々を対象にした定年帰農というスキルアップだったり、レベルアップの講習会をしていますので、また新たな切り口として、賃料が安く、できれば耕作放棄地にならないような、その力の一つとして農地のない美浜区の方々が参加できるすべがあるだろうかとか、そういうことを考えてみたいと思いますので、ご意見、ありがとうございます。

**【美浜区参加者 G】**

それともう一点、見たところは面積少ないからとかどうのこうのと私は言っているんじゃないんですよ。自分でつくったものを販売して、それをお金にしようという、そんな気持ちは毛頭ないんですよ。だからもうちょっと賃料です、問題は。段階的に安くしていただければと思います。

**【美浜区参加者 B】**

その賃料ですけれども、私じゃないけれども、お隣のおやじさんがやっていたんですけども、もう亡くなっちゃったからやめちゃったけれども、花見川で大体二、三千円って言ってましたよね。そのかわりあんな広くないですよ。あの3分の1ぐらいですから。それ、民間の土地です。だから民間の方で百姓やらないから、こう区画にして貸しているという。そのかわり中田の市民農園のような設備何もないです。水も自分で運んできてまいたり。その点中田の市民農園は設備だって完全ですよ。耕運機は貸してくれる、肥料もちゃんとそこまで運んで、肥料は買わなくちゃならないけれども、そこで買うことができる。水だって自由に使っていいわけですよ。そういうことを考えれば、ちょっとは高いかもしれないのは、しょうがないんじゃないかなという気もしたんですが。私、素人だからわからないですよ。ただ、花見川あたりは三千円からその辺の1区画、貸しているのが現状だそうです。



【美浜区参加者 G】

花見川区の土地は面積、少ないでしょう。

【美浜区参加者 B】

面積は少ないです。

【若葉区長】

どうぞ。

【若葉区農業関係者(中田市民農園管理運営組合)】

今、市民農園の使用料が議論になっていますけれども、一応この値段というのは市役所で決めました。それで千葉市内の平均の価格です。平米500円という。そういう価格で。

【美浜区参加者 B】

ああ、そうか。

【若葉区農業関係者(中田市民農園管理運営組合)】

平米500円。これは千葉市内の平均だそうなんです。それで中田の市民農園につきましては、千葉市の施設なものですから、あそこだけ安くしたり、そういうのはちょっとできませんので。

【美浜区参加者 B】

それはそうでしょうね。

【美浜区長】

ちょっと議論が白熱しておりますけれども、ここで休憩をとりたいと思います。

( 休 憩 )

【司会】

それでは時間となりましたので、意見交換会を再開させていただきたいと思います。皆様、お気づきになったと思うのですが、ご自分のお席のところにジュースがあると思います。こちら、今日、若葉区の農業関係者として参加いただいております観光農園からご提供のブルーベリーのジュースだそうですので、ご試飲頂ければと思います。

それではここで、農業関係者、若葉区から美浜区民に向けて若葉区の魅力のPRといった意味も含めまして、取り組んでいる2つの事例について発表がございます。ここで進行役を農政センター農業生産振興課にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

農政センター農業生産振興課です。よろしくお願いたします。

最初にPRさせていただきますのは、若葉区小倉町で経営されている観光農園さんです。よろしくお願ひします。

**【若葉区農業関係者（観光農園経営者）】**

若葉区小倉町で観光農園をやっておりますドラゴンファームの内田と申します。よろしくお願ひします。会議の最初にも少し説明しましたが、植草学園短期大学から車だと二、三分の裏手にあります。小倉の森という市民の森が目の前にあります。ここにはよく日曜日とか土曜日は、お弁当を持ってきて、ここで食べられたりして、結構皆さん来ております。その前に、うちのイチゴ園とブルーベリー園がありまして、この小倉の森の真ん前にイチゴ農園、小倉市民の森から歩いて四、五分のところにはブルーベリー園があるんですけども、高設のベッドと言ひまして、高さが大体胸ぐらいのところにありますので、ちょうど食べるときは、目の前でとって食べられます。下も防草シートとか敷いてありますので、ハイヒールでも汚れませんし、あと健康な若い方はどこでもしゃがんでとったりできます。うちではできるだけベッドとベッドの間も広くして、そのまま車いすでも、そしてベビーカーでも入れるように幅を広くしております。時々、身体障害者の寝たきりのベッドのまま入って食べていただひております。

イチゴ農園をするのに当たり、できればこれから高齢者の方が多くなりますので、うちは介護施設の方とか老人ホーム、そういう方にたくさん来ていただきたく、今年、去年と新設したところもまたより広くして、車いすでもゆっくり食べていただけるようにと思ひてやっております。

あと、ドラゴンファームの名前の由来ですが、最初、ブルーベリーとドラゴンフルーツをつくっております、観光農園をするのに当たり、ちょっと名前を考えたときに、ドラゴンフルーツの名前をとってドラゴンファームにしました。

ブルーベリー狩りは6月から8月まで行っております。そして、ブルーベリーも好きで始めて、約20年ぐらい前からブルーベリーの魅力に取りつかれ、五、六年前に1,000本になりましたので、ブルーベリー園をしました。まだ、農薬は使わず、毛虫、ミノムシ、すべての虫は手でとって、これが一番うちでは大変な仕事です。

そしてイチゴ狩りは1月1日から、今年は5月のゴールデンウィークまでやりました。品種はいろいろありまして、今、とちおとめが一番主流ですが、うちではやはりよそでは食べられないものをつくりたいと思ひまして、新種のかおりの、かなみひめをはじめ、あと全部で9種類、紅ほっぺ、あきひめ、いろいろありますが、もう一個、やよいひめ、全

部で9種類あります。そして、どの園の中でもすべて食べられるように、1つ300坪ありますが、すべて9種類植えてあります。

あと加工品ですが、ブルーベリーがたくさんとれますので、イチゴもとれますので、ジャムとジュースもつくっております。そして、ジュースもブルーベリーは何も入れない100%。そして今日、皆様に飲んでいただいたのが60%の飲みやすくしてあるお砂糖とクエン酸が入れてあります。あと40%もあります。うちの農園としょいか〜ごさんで販売しております。

あと皆さんで来ていただきたいので、トイレも車いすが対応できる水洗トイレにしてあります。駐車場も20台ぐらいとめられます。

あと、今日はすごくたくさん意見を聞けて、とても来てよかったと思います。この対話会に来るときは、いろんな意見を出されて、ちょっと怖いかなと思いましたが、とても参考になりまして、あんまり宣伝していなかったのが、これから宣伝に力も入れたいと思います。そして、高齢者の方にもたくさん来ていただけるよう、30分のイチゴ狩りなんですけれども、その後もゆっくりしていただけるように、テーブルと椅子でいつもお茶をお出ししております。

ぜひ、お時間がありましたら遊びに来てください。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】**

ありがとうございました。今、こちらに展示していますが、内田さんがつくっているジュースが3種類あります。今、皆さんに飲んでいただいているのが60%のジュース。展示している真ん中の物はちょっとワインみたいなんですけれども、100%のブルーベリージュースです。一番左側に展示しているのは、ブルーベリーとラズベリーとカストロベリーを混ぜたベリーベリーというものです。ぜひこれを機会に飲んでいただいて、あるいは今日、自治会の方もいらっしゃいますので、観光農園、千葉市の中でもかなり優秀なイチゴ農家ですので、ぜひ来ていただければいいかなと思います。

**【美浜区参加者 B】**

ちょっと2点ばかり聞きたいんですが。駐車場には大型バス、入りませんか。

**【若葉区農業関係者（観光農園経営者）】**

入ります。

**【美浜区参加者 B】**

入りますか。あと、イチゴとか食べ放題ですけれども、持ち帰ることができるお土産の

売店もやっているんですか。

【若葉区農業関係者（観光農園経営者）】

はい。去年から少し販売できるようになって、ただお客さんが多いときには、ちょっと少な目で、朝のうちすぐ出ちゃうんですけれども。

【美浜区参加者 B】

そうですか。わかりました。

【若葉区農業関係者（観光農園経営者）】

もし、来ていただくとか、買いに来ていただくときは、前の日に言っていたら、朝とったのを予約でおとりしておきます。

【美浜区参加者 B】

はい、わかりました。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

それではニンジンの説明をしていきます。千葉市はニンジンの産地というのを皆さん、ご存じでしょうか。

【美浜区参加者 D】

知らなかった。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

千葉県は53の市町村がニンジン栽培していますけれども、その中で千葉市は8番目に多くの量を生産しています。広さで言うと、千葉市の動物公園の約4.6倍、155ヘクタール。生産量を動物園にいる象で換算しますと、約2,009頭分ぐらいになります。

今回そのニンジンについてPRしていただく生産者は秋から冬に収穫される秋冬ニンジンを栽培している市内でももうスペシャリストのお二人の方です。

それではご紹介させていただきます。島田さん。

【若葉区農業関係者（農業生産者A）】

島田です。よろしくお願いします。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

深山さんです。

【若葉区農業関係者（農業生産者B）】

深山です。よろしくお願いします。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

お二人が所属している組合について、簡単に説明をさせていただきます。千葉市で初めて農薬や化学肥料を通常使う量の半分に減らして栽培することに取り組みました。実は、そこに座っています富田都市農業交流センターを管理している組合の小倉さんが少しかけになったんですけれども、その栽培されたニンジンで平成10年度から千葉市の学校給食の供給を始めています。平成18年度からは地産地消と食育の観点から、生産者と千葉市、あとJA千葉みらい、三者で連携をして市内の小学校を訪問して、3、4年生を対象として出張授業を行っています。出張授業をしまして、生産したニンジンを給食に使ってもらう。生産者の方もクラスで給食を食べてもらうという授業を行っています。

本日は、せっかく皆さんに来てもらいましたので、その栽培の大変さを知っていただきたいというお二人の思いを込めて、出張授業の内容をそのまま、3、4年生のクラスということで説明をさせていただきますので、よろしくお願いします。

それでは今から授業を始めます。それではちょっと見づらいんですけども、通常はこの前に小学生がいっぱい並んでやるんですけども、遠いところをご遠慮ください。それでは農家の方に、秋冬ニンジンの作り方について教えていただきましょう。まず、これは島田さん、何をしているところでしょうか。

**【若葉区農業関係者（農業生産者A）】**

小学校のままだと、ちょっとここに合わせてお話ししますので。これは肥料をまいているところです。肥料をまく機械ですね。ただ、こっちのほうが皆さん方、興味があると思うんですよ。これは何をやっているかわかりますか。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】**

わかる方、いらっしゃいますか。

**【若葉区農業関係者（農業生産者B）】**

わからないですか。これはビニールを張る時期が7月の後半から8月上旬。ということは、非常に暑いんですよね。その暑さを利用して、ここにビニールを張って、中を土壤消毒している。それによって農薬とか除草剤、3種類か4種類を減らすことができるようになったわけです。こちらは太陽熱で土壤消毒しているところですね。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】**

それでは隣、こちらは何でしょうか。

**【若葉区農業関係者（農業生産者B）】**

これはニンジンで種なんですけれども、昨年からは新しい「アイコ」という品種を使って

います。それから、この容器1缶の中に1万粒の種が入っているわけなんですけれども、これがニンジンの種ではありません。この粒の中にニンジンが1粒ずつ入っております。滑石という鉱石の一種でコーティングをしたのが種なんですけれども、それでなぜコーティングをするかといいますと、機械まき、人力で行う場合もありますけれども、トラクターで播種する場合もあります。

そして、先ほど「アイコ」と言いましたけれども「アイコ」「向陽」「陽州五寸」「らいむ5寸」という4種類があるわけなんですけれども、この千葉東部地区の場合はニンジンの出荷期間、収穫期間が11月から3月いっぱい5カ月間あるわけなんですけれども、1つの品種で5カ月の収穫はちょっと厳しい。それぞれの品種には特性がありまして、100日早くから収穫できる品種、あるいは100日収穫するのに必要な品種、そしてまた寒さに強い品種と、いろいろあるわけなんですけれども、何十種類という品種の中で千葉東部地区の場合は、「アイコ」「向陽二号」「陽州」「らいむ」を選択して使用しております。そして「アイコ」「向陽二号」が年内どり、11月、12月と。そして1月から3月いっぱいまでを「陽州五寸」「らいむ五寸」ということで、5カ月間をニンジンの収穫期としております。

以上です。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】**

今は種の話をちょっと難しい名前が出てきましたけれども、種がいろんな種類がありますので、少し種の話をお聞き、栽培されている方もいらっしゃいますので、いつも小学校の授業で話をしている際よりもグレードアップしてお話をいただきました。

続きまして、これは何をされているところでしょうか。

**【若葉区農業関係者（農業生産者A）】**

種まきですね。このマルチをはがしたところがこういう状況になっています。約20日から1カ月間、太陽の力を利用して消毒したところをはがして、土を動かしますと、またそこから雑草の種を下からほじくると出しますので、そのままはがしたまま種をまいていく。こっちが種まき機なんですけれども、種をまく機械もいろいろありますけれども、これ、自分がまいているところなんですけれども、エンジンがついています。エンジンつきでただ押さえれば、機械が動いてくれます。種の調整はここにありますけれども、1反歩10アール、3万粒から8万粒ぐらいの数は自由に調整できます。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】**

それで、種をまいて、約1週間たつと芽が出てきます。芽が出てきまして、約50日ぐらいたつと、葉が茂った状態になります。この状態を抜いてみますと、ちょっと見づらんですが、既にもうニンジンの色と形をしているものが出てきます。ここまでの間に、農家の方はいろいろな作業をします。その作業をしているのは、深山さん、何をしていますでしょうか。

**【若葉区農業関係者（農業生産者B）】**

ちょうど50日くらいです。このくらいになりますと、雑草の葉も生えてきます。その雑草を抑えるということでニンジンとニンジンの間を中耕あるいは酸素を供給してあげる。それから一番の仕事は間引きという作業なんですけれども、個々生産者によって違いますけれども、8センチから10センチ間隔くらいに間引きをします。2本くっついていると、2本一緒に育ってしましまして製品になりませんので、ニンジン1本が正常に育つようにということで間引きをしております。それから、ちょっと生育の状況を見て、追肥を行う人もおりますけれども、そしてそれから間引きが終わりますと、培土というか、ニンジンの根本に土を寄せてあげる。そして順調に生育しますようにということで、そういう作業を行います。

以上です。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】**

そうしますと、この畑の写真がちょうど11月の上旬くらいです。そろそろ収穫が近くなってきました。さあ、収穫するぞといったところで、農家の方は手で1本1本とることはしません。島田さん、これはどういうものでしょうか。

**【若葉区農業関係者（農業生産者A）】**

ニンジン専用の掘りとり機です。ここに現物があるんですけれども、これ、一応洗ってありますけれども、ニンジン抜いたときには、当然泥がついていますけれども、この機械が葉っぱをつまんで抜き上げます。抜き上げて、この上の葉っぱを切り落とします。この下の根っこもある程度切っちゃいます。これがニンジン掘り専用機なんですけれども、大体1時間にこのコンテナ20キロくらい入りますけれども、1時間に60杯。畑の条件によっても多少違いますけれども、60杯といたしますと1,200キロですから。1時間にこの機械だと掘ってしまいます。

**【美浜区参加者 D】**

すごいですね。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

続きまして、隣の機械は何でしょうか。

【若葉区農業関係者（農業生産者B）】

今の全自動の掘りとり機とちょっと違いまして、これはトラクターでエンジンを底から掘り上げる機械なんですけれども、1本ずつエンジンを抜くには、結構力が必要とするわけなんですけれども、やっぱり雨とか何か降って地固まるじゃないんですけれども、手で抜くには大変な作業になります。それで抜きやすいように、トラクターの掘り上げ機をエンジンの下を通してあげて、ちょっとさわって力を入れれば、もう簡単に抜けるという状態にしてあげて、全自動ほどには及びませんが、人力で少しでも能率を上げたいということで利用しております。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

隣の写真なんですけれども、掘り上げ機で上げたエンジンを、これ、すごい寒いときにやられている作業ですよ。これは何をされているんですか。

【若葉区農業関係者（農業生産者B）】

11月、12月、今、暖冬で暖かくなってきておりますけれども、3月いっぱいまで続くわけで、1月、2月、一番寒い時期でも畑でエンジンの葉切り、根っこを切る場合があるわけなんですけれども、全自動掘り上げ機、掘り上げて掘った場合は、どうしても人力で葉っぱと根っこをとらざるを得ない。そういうことで、能率的には全自動にはかないませんが、でも出荷するわけにはいかないの、こういう手作業でも、皆さん、寒い中、頑張って収穫しております。

以上です。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

ありがとうございます。それで、畑で葉っぱと根っこをとってコンテナに入れたエンジンなんですけれども、じゃあ、ここで皆さんに質問します。泥がついているエンジンをこれからどういうふうにすると思われませんか。授業と同じにやっています。

【美浜区参加者一同】

洗うんじゃないのかな。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

洗う。正解です。洗うときには、こういうエンジン洗い機という洗い機でエンジンを洗います。大体1回でどれくらいですか、洗うのでしょうか。



【若葉区農業関係者（農業生産者A）】

機械によりますけれども、80キロ、コンテナ4杯とか5杯、6杯。そのうちによって多少のそのくらいの差がありますね。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

洗い終わったニンジンこれをまた不思議な機械がありますけれども、これは何でしょうか。

【若葉区農業関係者（農業生産者A）】

これは、選別機ですね。形状の悪いとか何とかというのは、選別できない。重さで分けていきます。大体ここに3L、2L、L、M、S、それで2Sですから、5段階ぐらいです。私は、ちょっと話がそれますけれども、地元の小学校を収穫、学校の授業の一環で受け入れているんですけれども、当然掘りとりから全部やらせるわけです。一番歓声がわくところがこの機械に入れて5分待つのだぞと。そうすると、5分するとこういうふうになっています。そうすると、まず歓声がわーっと上がりますね。それで、この機械を今度は動かしてやりますと、もう子供たちが夢中で見えています。すごいですよ、ほんとうに。これがだから選別機です。重さ別に洗ったものを分けているところです。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

この作業は夕方から夜にかけて行われます。そのエンジンはぬれていますので、一晚乾かします。一晚乾かして、朝から午前中にかけて、これは何をしているのでしょうか。これですね。

【若葉区農業関係者（農業生産者A）】

それは箱詰めですね。台の上に乗っているのが小袋、わかりますか。これ、小袋3本とか4本とか重さで分けています。大体3本で500グラム、4本で500グラム、5本、6本で500グラムとなるように詰めているところです。こっちの手前、大きいのは、こういうふうにバラで詰めます。これはほとんど、この辺クラスのものは学校給食とか何かに使われている品物で、こっちの小袋に詰めたのが皆さん方の手元に届く品物じゃないかなと思います。

これが小袋に詰めた3本のやつを箱に詰めた状態のエンジンですね。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

本来であれば、ここで農協の職員が来て、農協さんがどういうふうに市場まで持っていくのという話をしているんですけれども、まず、車に乗せて農家の方は農協さんの集荷場

というところに持っていきます。集荷場に持って行って、さらに千葉東部地区出荷組合、お二人がいる組合では、あることをしています。これは深山さん、何をしているんでしょう。

**【若葉区農業関係者（農業生産者B）】**

この写真なんですけれども、千葉東部地区出荷組合、生産者69名おりますけれども、一番緊張する場面なんですけれども、ニンジンの検査をしているところです。一応ニンジンを出荷するに当たりましては、規格があります。その規格どおりに箱詰めされているかどうかを検査しているところです。規格の中には、正品まではB品という形がとられておりますけれども、正品の中に虫食いとか割れとか、そういうものが入っていないかどうかを検査しております。そして、虫食いとか割れとか何かは何本か入っていると、生産者の方に注意をいたします。そしてあんまりひどい場合は、共選の出荷じゃなくて、別売出荷となります。そういうことで、69名の出荷されたニンジンができるだけ同じ選別人で出荷できるということで、検査体制をとっております。

以上です。

**【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】**

そして、まさに美浜区の千葉市中央卸売市場にニンジンが運ばれます。じゃあ、このニンジンは今日、参加されている皆さん、どこで買えるのか。それをお聞きします。どこに行けば買えますか。

**【若葉区農業関係者（農業生産者A）】**

中央市場に当然出していますので、市場関係者に聞きましたところ、美浜区ではマルエツ、幸町にあるほうですけれども、そこに納めているそうなんですけれども、もしなければ、店員なり店長なりに、こういう品物がないのかと言ってくれば、すぐ納めるそうですので、ぜひ買っていただきたいと思います。袋がこれはまだ出てないですけれども、12月中旬から1月限定のニンジンで、彩誉という品種なんですけれども、これは非常にうまいニンジンです。ぜひ出ていたら食べていただきたいと思います。この袋です。県のエコマークがついた、これもまさに千葉市の環境保全型推進農業という名前も入っていますので、これに関しては、マルエツさんと千葉では三越さんの地下に食品売場に行きますと買えますので、ぜひこういう袋を見つけたら買っていただきたいと思います。

うちのは千葉県では6番目か8番目、そうほかの八街とか富里、山武から比べると面積自体は少ないので、中身で勝負していますので、千葉県の品物というのは、ほとんどは一

流品なんです。東京のほうに出している。その中で、千葉東部地区の場合は、超がつくんです。

【美浜区参加者 D】

超一流。

【若葉区農業関係者（農業生産者A）】

そう。超一流なんです。東京でも一番上のランクの相場で、大体新甫相場で言うと、一番上の相場がこの若葉区の千葉東部地区なんです。ですから、千葉市場に納めているのも安くありません。ちょっと高いかもしれませんが、ぜひ買っていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

【オブザーバー農政センター農業生産振興課係長】

以上でちょっと時間が長くなってしまいましたが、若葉区の観光農園の経営者とニンジンの生産者の方にPRをしていただきました。ありがとうございました。

【司会】

次に、若葉区の人気のスポットともなっておりますJA農産物直売所のしよいか〜ごのお話しを聞きたいと思います。しよいか〜ご千葉店田中様、よろしく願いいたします。

【若葉区農業関係者（JA千葉みらい農産物直売所しよいか〜ご）】

しよいか〜ご千葉店の田中です。今日はどうもご苦労さまです。それでは、少しの時間ですけれども、しよいか〜ごのPRということで、ご案内をさせていただきたいと思います。お手元に、こちら、リーフレットございますけれども、しよいか〜ごにつきましては、小倉町にある千葉店のほか、千葉市に面しているところですが、習志野市の実籾本郷のところに習志野店がござして、現在こちらの2店舗の運営をさせていただいております。

今現在、しよいか〜ごにつきましては、千葉市、習志野市の生産者の方、約950名の出荷登録をいただいております。また、しよいか〜ご千葉店におきましては、売り場面積が960平米、約280坪ございます。これは農産物直売所では、東日本最大級ということで、ぜひ一度ご来店をいただければと思います。場所は公共施設でいきますと、千葉東警察署の並びということで、そちら小倉町にございますので、ぜひご来店いただければと思います。日ごろ、大型バスでご来店される方も多くいらっしゃいますが、都内からも多くの大型バスで来てお買い物をして帰る方も大勢いらっしゃいます。ぜひ直売所巡り、また観光巡りの中でお立ち寄りいただければと思いますので、ひとつよろしく願いいたします。

また、今後はいろいろお買い物に困っているという、お声がありましたけれども、サービスの一環として、今後まだまだ先になるかと思えますけれども、宅配であったりとか、または自治会の皆様のご理解をいただいて、送迎という形もぜひ今後検討してまいりたいと考えてございます。その際は、ぜひお力添えをいただければと思えますので、よろしくお願いいたします。

先ほど、千葉店については最大級ということでお話しさせていただきましたけれども、950名いる生産者の方につきましては、新鮮さを届ける思いとしては日本一の農業所だと思っています。私自身思っていますので、そういった思いの強い農家の方がたくさん出荷していただいておりますので、ぜひ、しょいか〜ごのほうに足を運んでいただければと幸いです。

簡単ですが、以上でございます。

**【司会】**

ありがとうございました。それでは、意見交換に戻らせていただきたいと思います。若葉区長、再び進行をよろしくお願いいたします。

**【若葉区長】**

何かご意見はありますか。

どうぞ。

**【美浜区参加者 H】**

美浜区民フェスティバルにも朝市を出店されていますか。

**【若葉区農業関係者（下田ふれあい交流施設管理運営組合）】**

私のところでやっています。

**【美浜区参加者 H】**

そうですか。この間の区民フェスティバルの際にもいらっしゃいましたか。夏には真砂コミュニティーセンターまつりとか、地域のお祭りがここのところ多くありますよね。夏のお祭りとかは近くの新聞屋さんが出店されたみたいなんですけれども、そういうときに、千葉市の農をPRできる機会があればとも思います。ご近所みたいだったんですけれども、主婦としてなかなか手に入らない泥付のネギ、あと葉つきの野菜とかの活用は、今はなかなか、パック売りとかがありますので、そういうものも含めて、私も何回か伺わせていただいたんですけれども、もうちょっと品数があれば、足を運ばせていただけるかなという形で、やはり高齢者の方も真砂、磯辺は多いですので、小分けしたものとかがいろいろ出て

いましたので、その辺もご考慮いただけたらと思いました。事前のアンケートにも書かせていただきましたが。ということですがいかがでしょう。

【美浜区長】

ありがとうございます。

【美浜区参加者 H】

私は磯辺に住んでいますが、磯辺に来る前に東京の武蔵小金井市というところに住んでいたんですけども、千葉に来ましたら、水産にしる農産物なんか産直の材料を使えると思って、楽しみに来たんですけども、両方とも全部市場経由の商品しか買うことができなかつたんですね。それでたまたま、この間もちょっと事前のアンケートに書いておいたんですけども、今はないんですけども、前に近くに稲毛生協というところがありまして、その入口のところに稲毛区の農家の奥さん2人が1週間交代で来ていまして、それでそのときはそこに行けば毎日だったので、新鮮な農産物がとりたてのものが購入できたもので、よくそこを利用していたんです。そのうちに、稲毛生協がなくなってしまって、それでいろいろ周囲探したんですけども、磯辺とか真砂とか高洲周辺いろいろ聞いたんですけども、全然なくて、それで市役所などに聞きましたら、結局産直のものを売るといことは、普通のスーパー何かからクレームがつくからなかなか難しいということ聞いたのです。でも、もうちょっと方法があるんじゃないかなと思ったんですけども、いろいろ探したんですが、結局無いままでしたが、それで今年の4月ごろでしたかしら、市政だよりに今度産直を美浜市役所のところでやりますと出たもので、ほんとうにやり方がよかったなと思ってほっとしたんです。それで月に1回なんですけれども、一応利用させていただいているんです。

それで、今政府のほうでTPPなんかに加入するとかしないとかって、何かいろいろな問題が出ているんですけども、やはり私、日本の農業とか水産業というのはやっぱり大切にしないとよくないと思うんですね。大切にしないと。だから、農業を活性化させるためにもとにかく消費者が協力しないとよくないと思うので、私なんかもとにかく少しでも回数を増やしてでも、今、1回なんですけれども、週に3回とか毎週日曜日とかにやっていただいたら、もうちょっと違う。たしか農家の人が毎週ああいうふうにして出されるといことは大変だと思うんですけども、消費者のほうから言いましたら、やっぱりそういうのをやっていただきたいと思うんです。よろしくお願いします。

ですから、とにかく農家の活性化のためにもやはりそういうことはすごく重要だと思う

んです、消費するという事は。だからやっぱり我々に今のところできることは、購入することしかできないので、なるべくならそういうことをやっていただきたいと思うんです。

さっきも種類が少ないとか何とかとおっしゃったんですが、やはり季節のものだから、それは私、ある程度しようがないと思うんです。スーパーとは違うわけだから。市場を通すわけじゃないから。だから種類が少ないというのは、私、別に収穫する時期というのは決まっているわけだから、だからそういうことは私はがまんできますので、ないものはスーパーで買えばいいわけだから、とにかく回数をもうちょっと増やしていただいたらいいと思うんです。よろしくお願いします。

**【若葉区長】**

ありがとうございました。

ほかにはご意見ある方、いらっしゃいますか。

どうぞ

**【美浜区参加者 J】**

実は一昨年まで老人クラブの会長をやっておりまして、それと社協の手伝いをやっておりました。確かに朝市の話は当時上がっておりましたが、自宅から美浜区役所まで我が2本の足で約20分ほどかかるんです。と申しますのは、私のところは美浜区の磯辺というところで、京葉線の海側です。ウォーキングで行く、出掛けがあって朝市に行く人がいるだろうと思って、実は自治会には役員会13人の役員がいるんですけども、先月今日の件で話をしましたら、皆だれも朝市行ってないということでございます。先ほどPRという話がありました。これも一つ重要目標として、PRしていただくと同時に、何月はこのものを販売するよというPRをされたら、方法は自治会を通じても結構でしょうし、それから先ほど話しました社協もいいでしょうし、それから老人クラブでもいいでしょうし、手立ては藤井さんの感覚でパイプをとっていただいてPRしていただくというのが一番適正じゃないかと考えます。

1点だけはそういうことで、PRをするということと、遠いというのがちょっと利点になっておりません。皆さんが引っ込み思案になっている。これが大事だと私は思いますので、その辺を上手にクリアできればいいと思う。そのためにはやっぱりいいものを安く出していただく。女性の場合は特に口から口へと伝わりまして、毎月第2日曜日は朝市行ってやろうという気持ちをご家庭の方が口から口へ渡り歩いてPRできると思います。

特に私もそうですが、我が町会は毎日夜回りをやっているんです。メンバーが私のところは8名おりまして、その中の6名は女性ですから、夜の井戸端会議と言っているんですけども、私は。そういう中にもそういう話が口から口へ伝わると有効にできるんじゃないかと思います。

今回昼食をとりました下田農業ふれあい館の直売所では、スーパーへ行きますと、大根なんか葉っぱがないのですが、葉っぱ付きのが売ってありました。私、幼いころは田舎でしたから、お袋があの葉っぱを油揚げと一緒に炒めて、それをおかず食べた記憶があるんですけども、そういう格好の話も先ほど出ましたけれども、そういうアドバイスもしていただければ、なお結構じゃないかと思います。

以上です。

**【若葉区長】**

ありがとうございました。

あと、何かございますか。

**【美浜区参加者 K】**

先ほど、お祭りの件も出ましたのですけれども、私の住む幸町1丁目では夏祭りのときに、以前に行われた市長との対話会のときにちょっと話がでたのですが、こういうものということで、市長さんのアドバイスもあったんですけども、市の園芸協会だと思うんですが、園芸協会を通じて、2年前ですけれども、初めて朝市をやりました。1回目のときは、大根が大変売れまして、100本持ってきていただいたんですが、あっという間に、10分間で売れてしまいました。去年は150本。ただ、こちらの園芸協会さんも農家から預かってくるものですから、売れ残りが困るとおっしゃったんですけども、結構売れまして、今年は味噌だとか、それから大豆、小豆、それから餅とか、バラエティーに持ってきていただきまして、全部完売しました。それで大変皆さん喜んでいまして、販売開始が10時ですけれども、9時20分ぐらいから四、五十名並んでいまして、あっという間に売れちゃいまして、大変よかったと思います。

そういうことで、地域のお祭りなんか、どんどん声を掛けていただいて、そうすればそれなりに野菜を持ってきていただければ売れると思いますので。こちら、園芸協会の方は事前に打ち合わせに来ていただいて、じゃあ、今年こういうものにしようかとありまして、私たちも、だから来年の準備委員会のときにはまた農政センターか園芸協会さんのどちらかに来ていただいて、住民はお年寄りが多いものですから、夏祭りなものですから、大変

暑い時期に並んでいただきますけれども、なるべく木の陰になるようなところを選んでしているんですけども、そういうことで地域のお祭りだとかいろいろな地域のイベントに来ていただくように、皆さんでお願いしたらいいかと思えます。よろしくお願ひします。

【若葉区長】

ありがとうございました。

何かございますか。

【美浜区参加者 L】

ちょっとお聞きしたいんですけども、今盛んに政府のほうで言われていますT P Pについて、生産者といいますか、皆さんあたり、どのようにお考えになるのかなと思って。いいものを安くつくれば、そういうものは怖くないんだという考えなのか、やはり気にされているのか、その辺のところ聞きたいなと思って、よろしくお願ひします。

【若葉区長】

じゃあ、私から少し。

いわゆるT P Pは、農産物の自由化に関する環太平洋連携協定と言っていますけれども、これが大きな問題となっておりますが、政府のほうでもこのT P Pの方向性、どちらに向かうかまだはっきりしていないということで、今朝の新聞でも全国の知事の中でも賛成された方が6人ぐらいで、あとの方は保留とか反対とか、そんな状況です。これが実施された場合に、どのぐらいの被害といいますか、影響があるかという、千葉県農産物の約3分の1の売り上げが落ちるということを言われております。千葉市でもほぼ同じぐらいです。アメリカのお米が入ってくると、1俵60キロ3,000円ぐらいだそうです。今、日本のお米というのは、1俵1万4,000円から1万6,000円ぐらいですね。あと、作付けの面積も全然違いますので、日本の農業はかなり影響を受けて、立ち行かなくなるという状況で、どちらに進むかわかりませんが、予断を許さない状況です。よろしいですか。

【美浜区参加者 L】

ありがとうございました。

【若葉区長】

他に何かありますか。

【美浜区長】

若葉区の農家さんから何かないですか。



**【若葉区農業関係者（農業生産者B）】**

いや、結構です。もう十分です。

**【若葉区長】**

ほかに何かございますか。

どうぞ。

**【美浜区参加者 B】**

生産者の方も今日お見えになっているんですけども、先ほど、選別と言っていましたよね。これはだめだとかって。我々はちょっとぐらい傷があつたって、キュウリが曲がっていると市場に出せないんでという話も聞くんですよ。あれは私は間違いだと思って。そういうものを朝市なんか持ってきて、安くしてくれれば。おそらく農家の方、捨てている人もいるんじゃないかと思うんですよ。ニンジンなんか、ちょっと悪いの、私、前に稲毛区へ散歩に行ったとき見かけたのですが、短いとか曲がったのとか山と積んであつて捨ててあつたんですよ。もったいないから拾っていこうかという気もしたんですけども。

**【若葉区農業関係者（農業生産者A）】**

よろしいですか。こういう、やはり個人で対応した場合には、そういうおかしのを捨てる場合があるんですけども、組合などの組織では、割れたりとかそういうので、ニンジンのジュースつくっているんです。JA自体でもジュースをつくっていますし、そういう大きい会社のほうにもそういうニンジンをおさめて、ニンジンジュースとして利用してもらっていますので、もし缶のラベルに千葉東部・土気産と入っているニンジンジュースがありましたら、それをぜひ買って飲んでいただきたいと思いますけれども。

**【美浜区参加者 B】**

それもそうですけれども、そういうB級の品物も持ってきてもらって、消費者に食べてもらって。味には全然変わりがないんですから。ただ見た目が悪いというだけで。安くしてもらえれば、消費者の方も助かるんじゃないかと思って。いいものを買いたい人はいいものを買ってもらって、安く欲しい人は安いのとやってもらえれば助かるのではないかと思うんですけどもね。

**【若葉区農業関係者（富田町管理運営組合）】**

それが実際農家をやっていると、そのB品というのは、運賃かけて持っていくでしょう。運賃のほうが高くなっちゃって、箱代、運賃、それをやっていくと、農家って手取り

何もないですよ。だから共選でやっているところは、大手は今言ったように、ジュースにするなど、何かやるけれども、そういう共選体制に入っていない人は捨てるかもしれないです。だからやっぱり農家も大手のそういう生産団体に入っている人は、いい面もあるんですよ。だから捨てているという場合だと、ほとんど自分で個人でやっているような人が捨てていると思うんです。

**【美浜区長】**

それでは、そろそろ終了の時間が近づいてまいりました。活発なご発言いただきまして、ありがとうございました。

今日は初めて若葉区と美浜区のコラボレーションということで、「農」を通じて美浜区民の皆様が若葉区にお邪魔をさせていただきまして、意見交換をさせていただきました。美浜の方も、それから農家の方も活発なご意見をいただきまして、ほんとうにありがとうございました。我々美浜区の区民といたしましては、まず農業関連施設を見学するなど「農」を体感させていただき、そして地産地消のとてもおいしいお食事を味わい、それから観光農園の方からご提供いただきましたブルーベリージュースもごちそうになりました。ありがとうございました。そして、ニンジンができるまでを学習させていただきました。ありがとうございました。

若葉区も高齢化が非常に進んでいるということですが、美浜区におきましても、その状態は一緒でございまして、高齢化率は若干若葉区に比べますと、パーセンテージは若いかもしれませんが、いずれ高齢化ということは両方の区にお互いの課題があります。ほんとうに今日は初めての企画で若葉区と美浜区ということで、やってみて若葉区長、よかったですね。

**【若葉区長】**

はい。

**【美浜区長】**

顔の見える関係で、ぜひ美浜区民、自治会と、そして若葉区の生産者さんがこれを機につなげて、よりお互いが安全で安心な住みよい魅力あるまちづくりを市民の皆様と、そして区役所が力を合わせて取り組んでいけたらいいなとほんとうに思いました。

本日は、皆様大変お忙しい中、お天気にも恵まれ、活発なご発言いただきまして、ご協力いただきまして、まことにありがとうございました。これもちまして終了とさせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —